

「明治大学体育会山岳部 『ドリームプロジェクト』を振り返る」

一部員・OBによるヒマラヤ8000m峰14座完登の軌跡―

発表者 明治大学体育会山岳部炉辺会、フリーライター 谷山 宏典

明治大学体育会山岳部『ドリームプロジェクト』について

- ・プロジェクトの発足は1999年。
- ・2002年に創部80周年を迎えるにあたって、何か大きな登山ができないかと考えていたところに、若手OBから「2001年にガッシャーブルムⅠ峰および同Ⅱ峰へ登山隊を出したい」という話が持ち上がる。
- ・当時、明治大学山岳部の学生・OBが登っていない8000m峰は「ガッシャーブルムⅠ峰および同Ⅱ峰」のほか、「ローツェ」と「アンナプルナⅠ峰」の合計4座を残すのみだった。
- ・そこで80周年記念事業として、残りの4座を登り、明治大学山岳部の学生・OBによる8000m峰14座完登を達成しようとなり、「ドリームプロジェクト」が立ち上がる。

ヒマラヤ8000m峰14座について

山名	標高
エベレスト	8848m
K 2	8611m
カンチェンジュンガ	8586m
ローツェ	8516m
マカルー	8463m
チョ・オユー	8201m
ダウラギリⅠ峰	8167m
マナスル	8163m
ナンガ・パルバット	8126m
アンナプルナⅠ峰	8091m
ガッシャブルムⅠ峰	8068m
ブロード・ピーク	8051m
ガッシャブルムⅡ峰	8035m
シシャパンマ	8027m

■14座完登は……

1970-1986 ラインホルト・メスナー（イタリア）

1979-1987 イェジ・ククチカ（ポーランド）

1982-1995 エアハルト・ロレタン（スイス）

：

：

1995-2012 竹内洋岳（日本）

※99年時点では6名

■個人で14座を登る時代に、チームでめざす意味は？

「私としては、この『ドリームプロジェクト』は良いとか、悪いとか、そういう次元の話ではないと思うんだ。結局、8000メートル峰14座完登というのは、先輩から後輩へと受け継がれてきた伝統の、世代を問わずわれわれみんなが持っている『明治大学山岳部の山登り』の集大成なんだよ」

平野真市（炉辺会会長・当時）

自己紹介

谷山 宏典（たにやま・ひろのり）

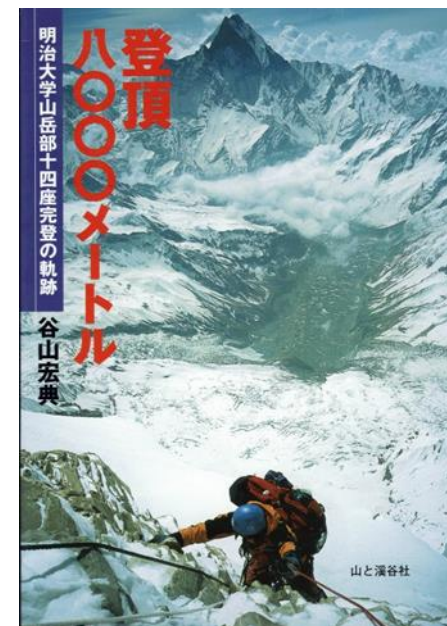
1979年愛知県生まれ。明治大学文学部史学地理学科卒業。

大学在学中に体育会山岳部に所属し、卒業後の2001年には明大隊の一員としてガッシャブルムI峰（8068m）& II峰（8035m）に登頂。

その後、編集プロダクション勤務を経て、09年フリーランスのライターに。『山と溪谷』（山と溪谷社）などの登山雑誌を中心に、さまざまなジャンルのメディアで執筆・編集にたずさわる。著書に『**登頂八〇〇〇メートル～明治大学山岳部14座完登の軌跡**』がある。

著書『登頂八〇〇〇メートル～明治大学山岳部14座完登の軌跡』について

ドリームプロジェクトの完結後の2005年8月に山と溪谷社より刊行。1970年の植村直己によるエベレスト登頂から、2003年のアンナプルナI峰登頂までの33年間にわたる明治大学山岳部の学生・OBによるヒマラヤ8000m峰への挑戦の歴史を、同部のOBであり、自身もガッシャブルムI峰（8068m）& II峰（8035m）登頂経験がある谷山宏典が、登山に参加した当事者へのインタビューや当時の資料などをもとにまとめた一冊。



① 植村直己のエベレスト日本人初登頂（1970年）

エベレスト(8848m)

1970年／日本山岳会隊…植村直己(日本人初登頂)



頂上を目指して登攀中

アイスフォール通過中



エベレスト頂上の植村直己

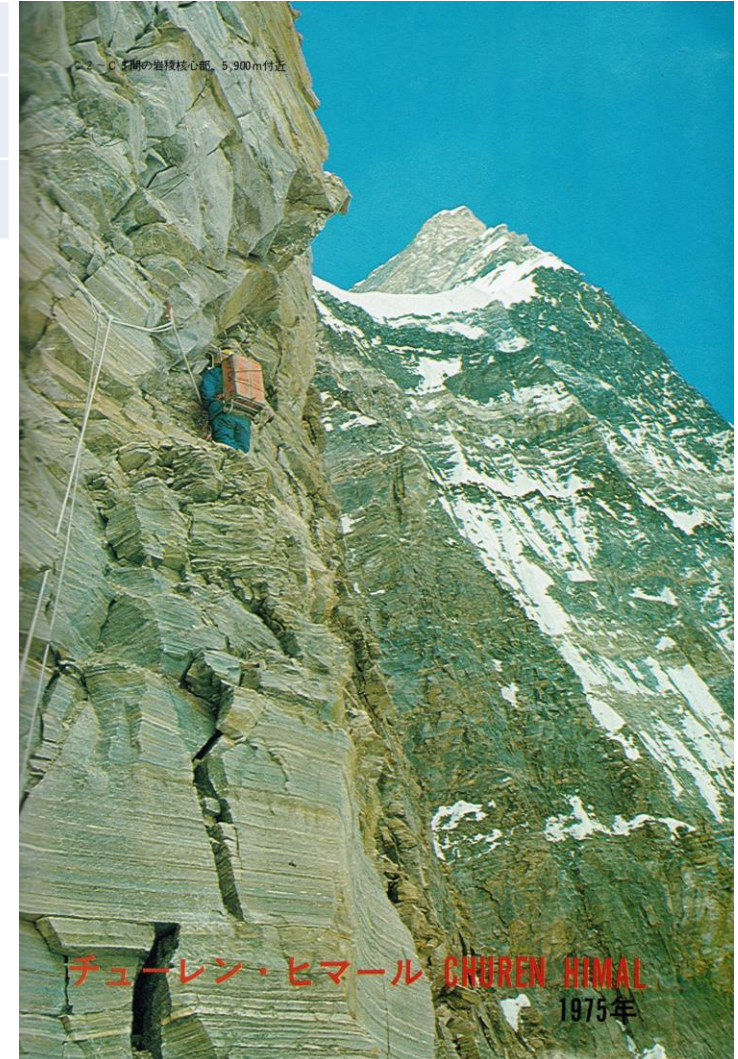
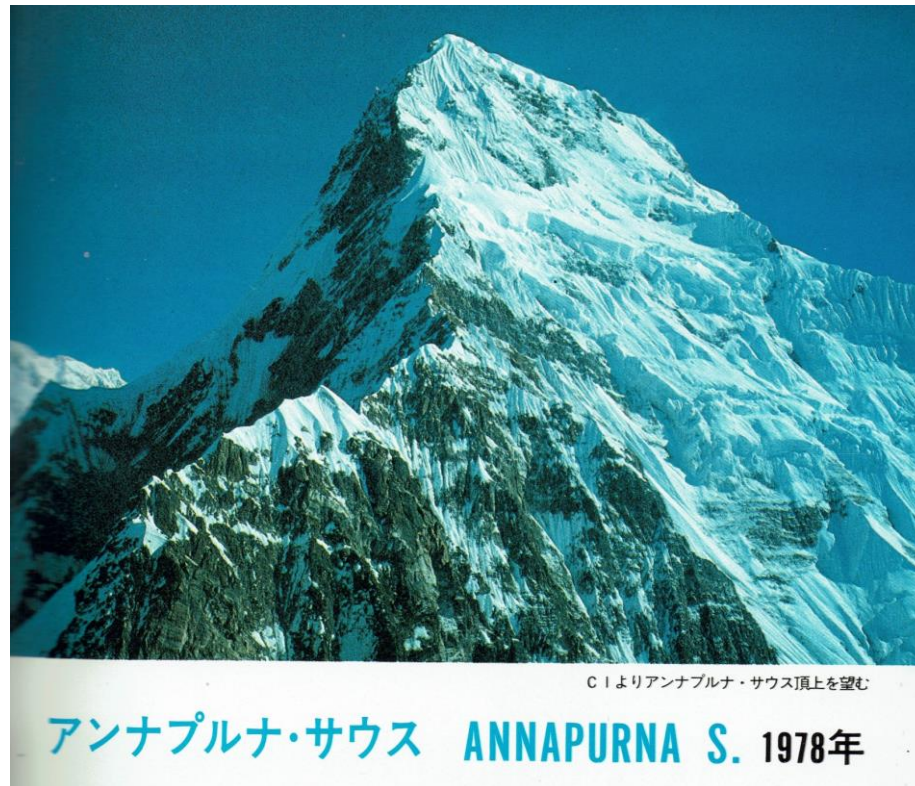
【本ページの写真は、植村直己『エベレストを越えて』（文藝春秋）より】



マカルー山頂から見た
ローツェ（左）とエベ
レスト（右）
【撮影 山本宗彦】

② オール明治でのエベレストを目指して ～エベレスト西稜での敗退（1981年）

1975	チューレン・ヒマール	7371m	西稜（未踏）
1977	ヒマルチュリ	7898m	東尾根・東壁ルート（未踏）
1978	アンナプルナサウス	7219m	南西稜



1981明治大学エベレスト登山隊／西稜



エベレスト北面。右のスカイラインが西稜

満を持して、総力戦で挑んだ、エベレスト西稜。
しかし、結果は、4回にわたる頂上アタックにもかかわらず、98mを残して敗退……

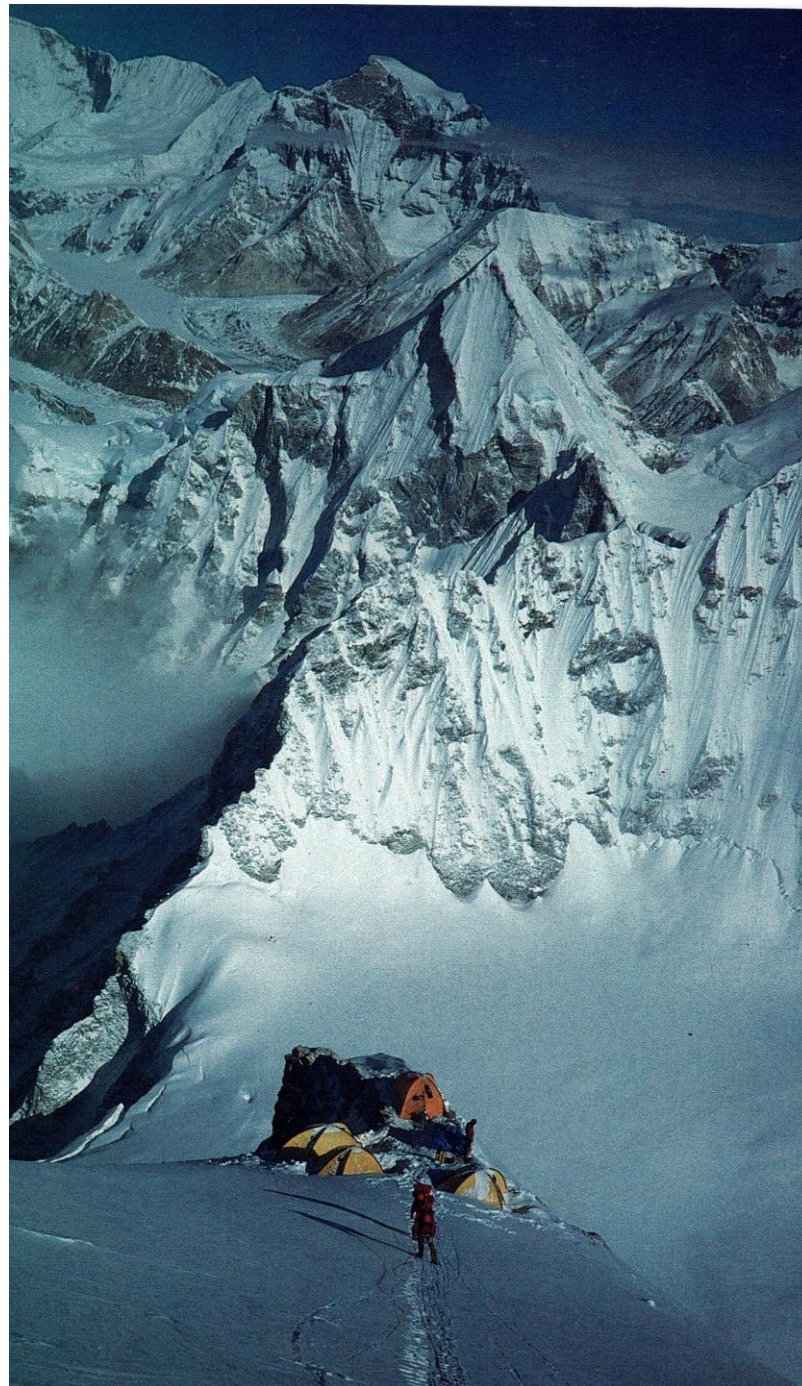
第1次アタック…松田研一、中西紀夫

第2次アタック…田中淳一、シェルパ

第3次アタック…松田研一、三谷統一郎

第4次アタック…田中淳一、田口伸

西稜第2キャンプ



③ 個々の会員による8000m峰への挑戦 その1

1982年	ダウラギリ I 峰	8167m	高松労山隊…田中淳一 三谷統一郎
1983年	ナンガ・パルバット	8126m	富山県山岳連盟隊…中西紀夫
1984年	カンチェンジュンガ	8586m	日本山岳会隊…三谷統一郎(登頂・縦走) 北村貢 山本宗彦
1985年	ブロード・ピーク	8051m	大阪府山岳連盟隊…山本宗彦
1985年	チョ・オユー	8201m	カトマンズクラブ隊…三谷統一郎、中西紀夫、北村貢

1982 / ダウラギリ I 峰



【撮影 三谷統一郎】

ダウラギリ | 峰北東稜から見たアンナプルナ | 峰北西面



【撮影 三谷統一郎】

1983／ナンガパルバット



【撮影 中西紀夫】



【上の2点の写真は、『ナンガパルバット登山報告書一九八三』（富山県山岳連盟）より】

1984／カンチェンジュンガ



【撮影 三谷統一郎】



【上の2点の写真は、『カンチェンジュンガ縦走
日本山岳会カンチェンジュンガ登山隊1984』（茗
溪堂）より】

1985 / ブロードピーク



【撮影 山本宗彦】

1985 / チョー・オユー



【撮影 三谷統一郎】

④ 1988年 日・中・ネ チョモランマ／サガルマタ 三国友好登山隊



北面からのチョモランマ

山本宗彦が北稜から登頂。明治大学山岳部OBとしては、植村直己に次ぐ2人目。

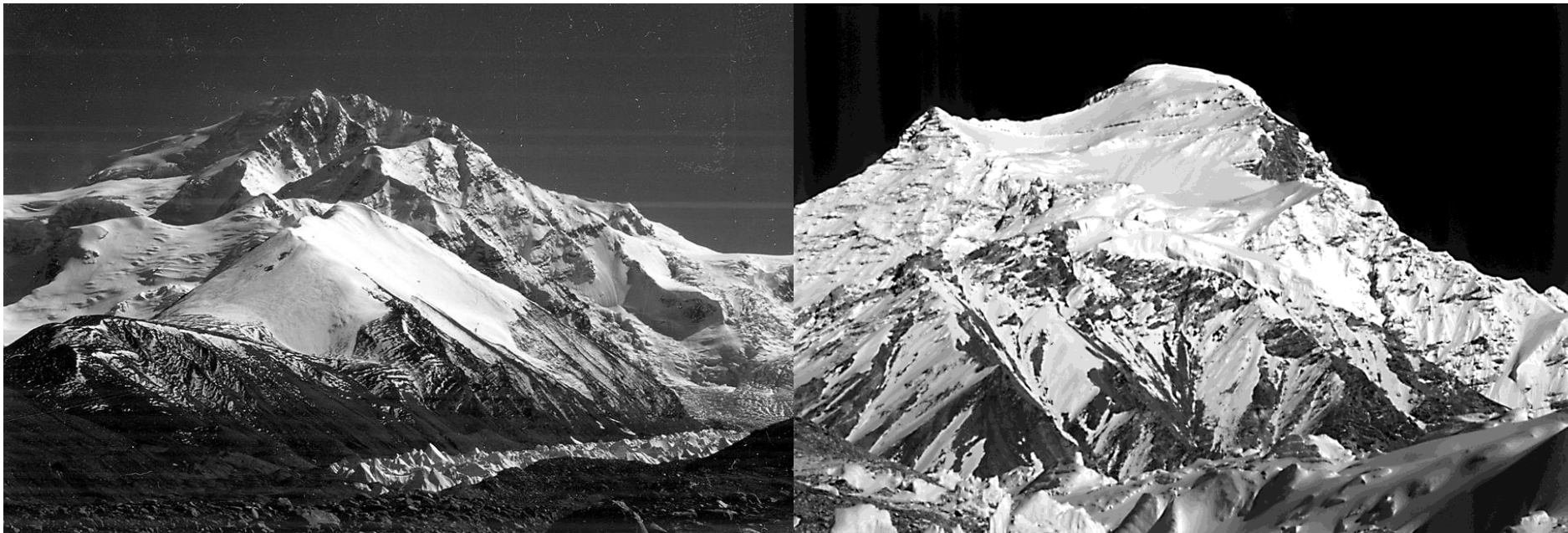
北村貢は、南側（南東稜）からの縦走隊員に選ばれるも、途中時間切れのため引き返す。

三谷統一郎は北側の2次隊員として待機をしていたが、1次隊による縦走の成功により全隊撤収が決まり、頂上には向かえず。

⑤ 個々の会員による8000m峰への挑戦 その2

1988年	シシヤパンマ	8027m	日本ヒマラヤ協会隊…山本篤
	チョ・オユー	8201m	
1989年	エベレスト	8848m	カトマンズクラブ隊…三谷統一郎、中西紀夫、山本篤、大西宏 (登頂は三谷、山本篤、大西)
1990年	マカルー	8463m	高所研究所隊…大西宏

1988 / シシヤパンマ・チョーオユー



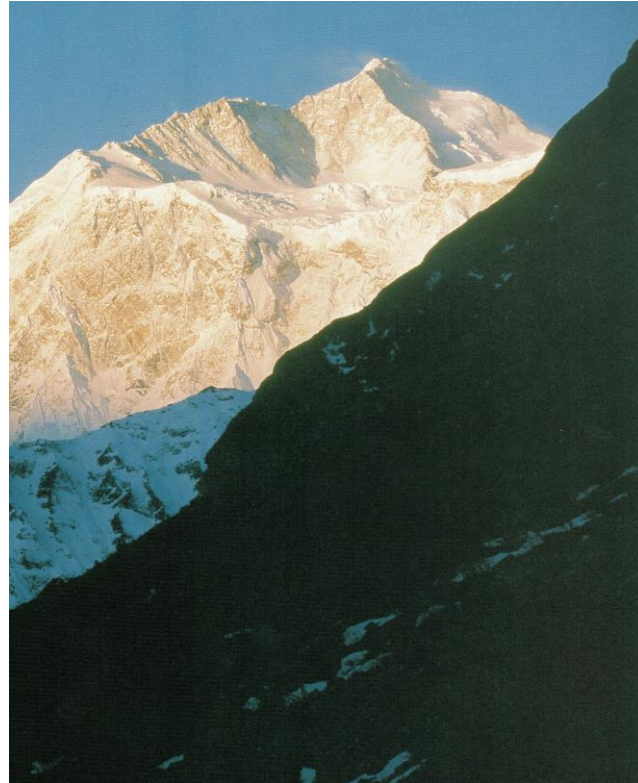
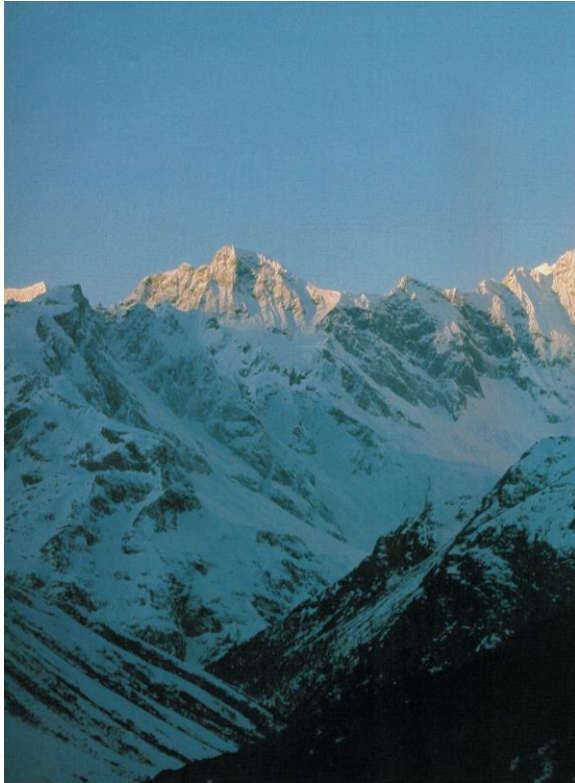
シシヤパンマ北面 【日本ヒマラヤ協会提供】

チョーオユー 【撮影 三谷統一郎】

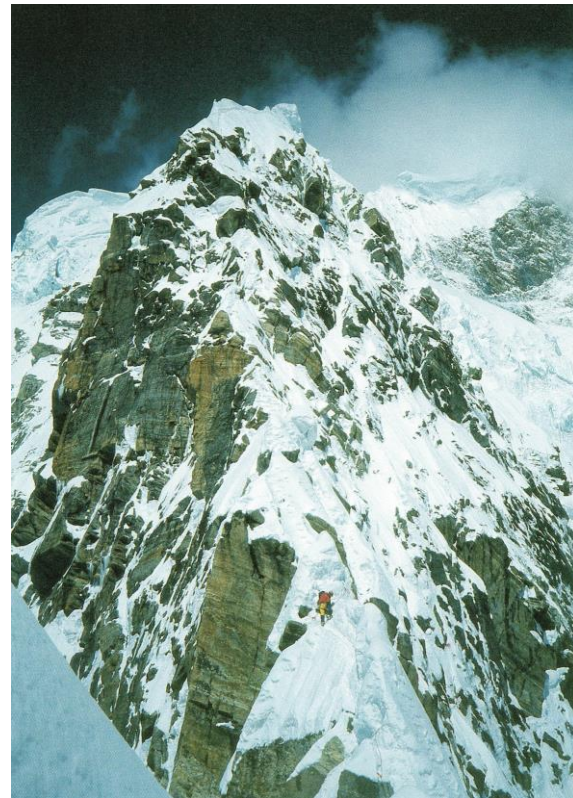
⑥ 日本山岳会隊の中核として

1995年	マカルー	8463m	日本山岳会隊…山本宗彦 山本篤
1996年	K2	8611m	日本山岳会隊…山本篤 高橋和弘 豊嶋匡明 (登頂は山本、高橋)

1995 / マカルー



【本ページの写真は、『マカルー東稜 日本山岳会マカルー登山隊1995報告書』（山と溪谷社）より】



【本ページの写真は、『マカルー東稜 日本山岳会マカルー登山隊1995 報告書』（山と溪谷社）より】



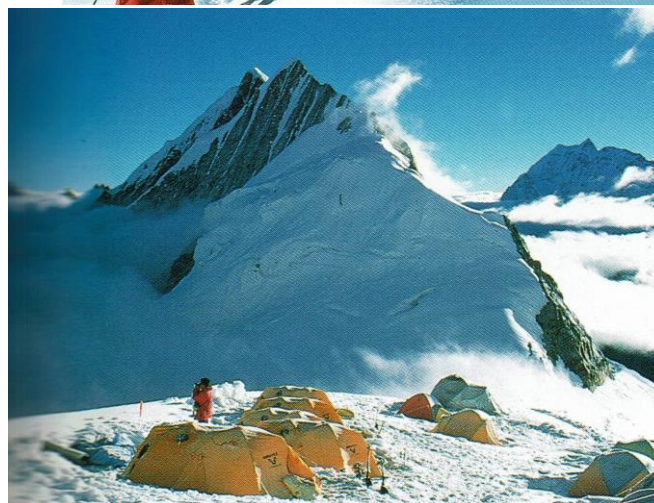
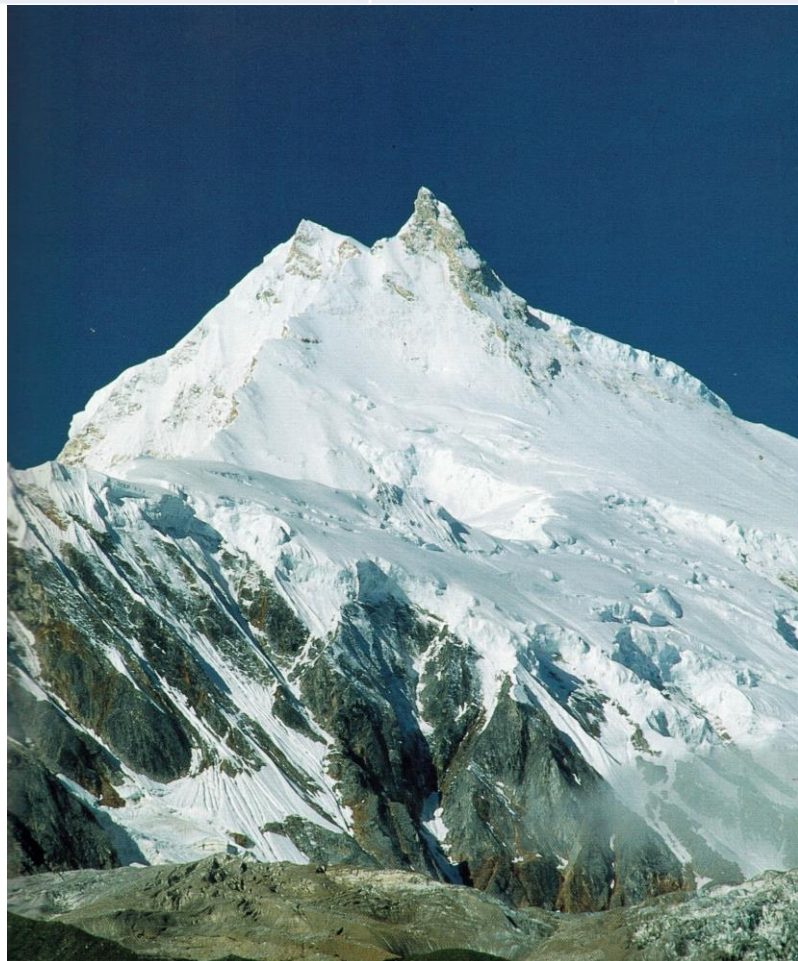
1996 / K2



バルトロ氷河コンコルディア
からのK2（左奥）とブロード
ピーク（右）

⑦ 明治隊初の8000m峰登頂 明治大学マナスル登山隊1997

1997年	マナスル	8163m	明治大学山岳部隊…三谷統一郎、山本篤、原田暁之 広瀬学、高橋和弘、豊嶋匡明、加藤慶信、関裕一
-------	------	-------	---

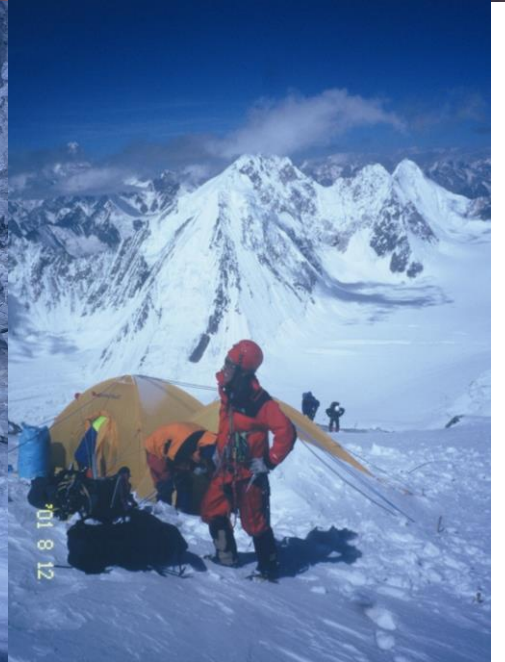


⑧ 残り4座を目指して。 ドリームプロジェクト始動

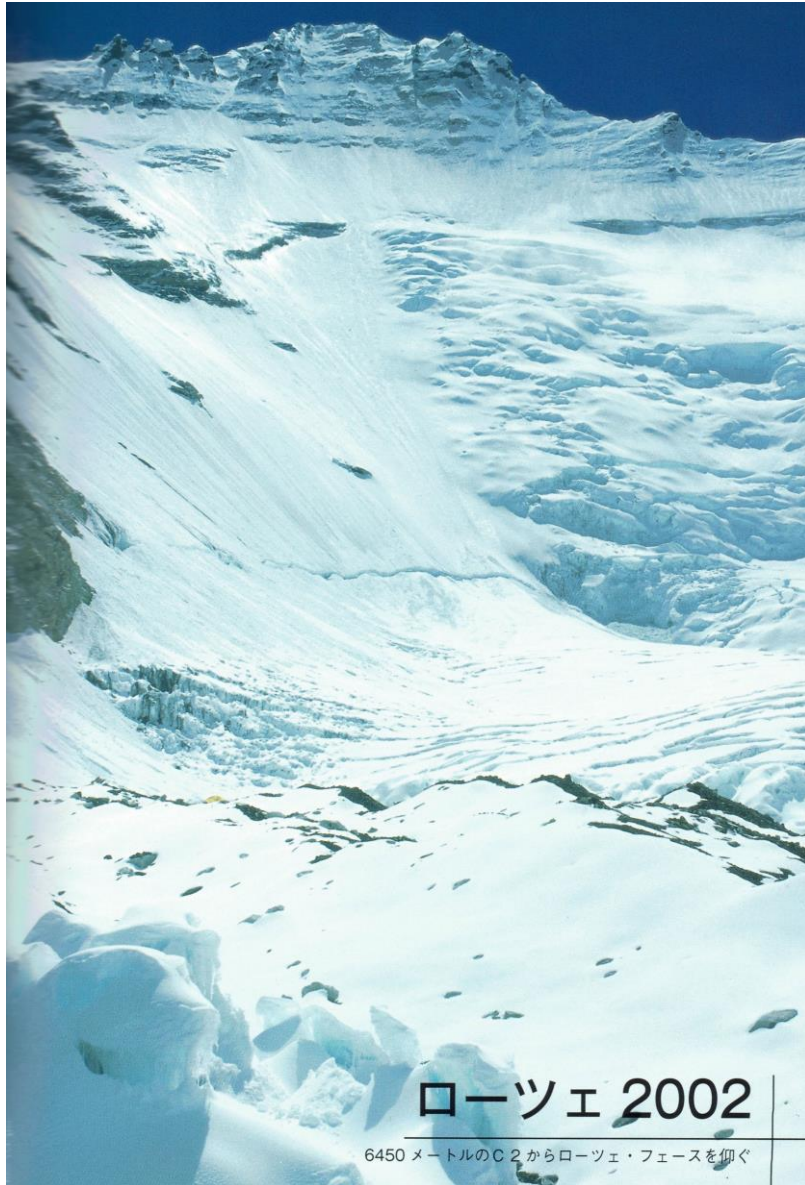
2001年	ガッシャブルム I 峰 ガッシャブルム II 峰	8068m 8035m	明治大学山岳部隊…高橋和弘、早川敦、加藤慶信、森章一、天野和明、谷山宏典
2002年	ローツェ	8516m	明治大学山岳部隊…三谷統一郎、高橋和弘、加藤慶信、森章一、天野和明、松本浩
※2002年	チョーオユー	8201m	日本山岳会隊…大窪三恵
2003年	アンナプルナ I 峰	8091m	明治大学山岳部隊…平野真市、山本篤、高橋和弘、大窪三恵、早川敦、加藤慶信、森章一、天野和明、松本浩 (登頂は山本、高橋、早川、加藤、森、天野)

2001／ガッシャブルム I 峰& II 峰

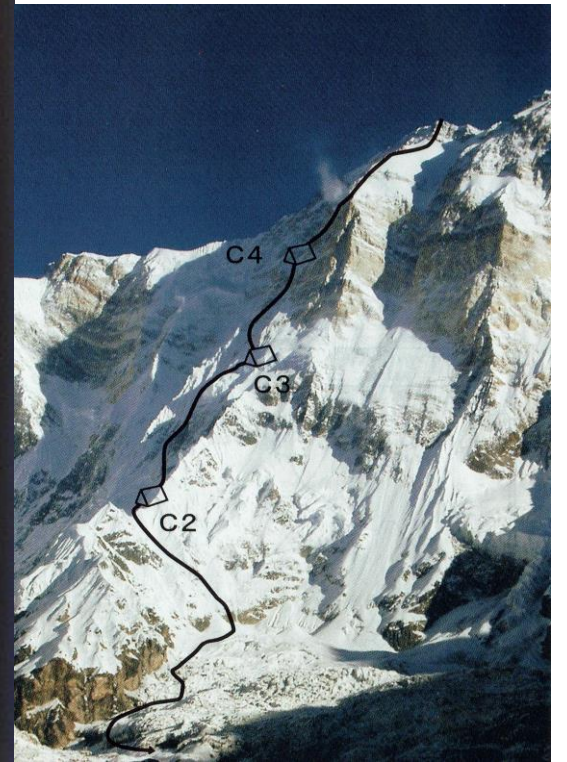




2002 / ローツェ



2003 / アンナプルナ I 峰



アンナプルナ南壁【撮影 天野和明】



⑨ ドリームプロジェクト以降の 炉辺会員の高所登山

2005年	エベレスト	8848m	2005年／加藤慶信
2006年	チョ・オユー	8201m	2006年／加藤慶信、天野和明
	シシャパンマ	8027m	

【撮影 加藤慶信、天野和明】

2006／チョーオユー、シシャパンマ





【撮影 加藤慶信、天野和明】

■使用写真について

本スライドで使用している写真のうち、特に出典名の記載がないものは、

- ・『登頂八〇〇〇メートル 明治大学山岳部十四座完登の軌跡』
(谷山宏典 著／山と溪谷社)
- ・『炉辺』各号 (明治大学山岳部炉辺会)
- ・明治大学山岳部炉辺会主催の海外登山隊の報告書
- ・明治大学山岳部炉辺会の会報『炉辺通信』
からの転載。撮影者はわかる範囲で記載した。